

24.8.12 8日

外来魚増え心配

熊野江小5年

高橋 愛海

外来生物が日本の自然に入りこんではんしょくし、もともといた生き物が減るなど大きな問題になっていることを新聞で知りました。

新聞には、琵琶湖の外来魚ブラックバスとブルーギルのことが書かれていました。1

300才も生そくしていると推定されています。このままでは外来魚が増え続け、フナなどのもともとの魚が少なくな



なるので心配です。

琵琶湖では、電気ショックで外来魚をつかまえているそうです。外来魚を減らす努力をしているのに、1994年からまた新たな外来種38種169匹が確認されているそうです。ペットの観賞魚が捨てられたのではと考えられています。

わたしは、人間が自分の都合で外来魚を連れてきて、育

てられなくなったら捨てるのは無責任だと思います。そのせいで、もともと川にすんでいる生き物が苦しめられるのです。外来生物は悪くないのに、つかまえないければならぬのです。外来魚をペットとしてかう人は、最後まで責任をもって育ててほしいです。

(延岡市)

ウナギぼっぽ

小学時を回想

無職 藤原 恵 79

24.8.10

7月27日の「くろしお」欄のウナギぼっぽの話は小学生時代に立ち返ったような懐かしい話だった。腐敗物の中に

棒を突っ込んでミミズを挿る方法も私たちのと全く同じで目の前に再現されたような郷愁を覚えた。

私たちは、竹で編んだ筒は高価で買えないので、近くの火葬場に行って棺おけを担いだモウソウの立派な竹を黙っていたら、適当な長さに切り、その皮を削り取って泥田につけて臭いを消し、竹ぼっぽにした。じょうこのようなふたは小学生の自分にも作ることができた。

餌のミミズはカンタロウという紫がかった大きなミミズが最高だったが、これを手にするとせつげんで洗っても臭いが取れないで閉口したものだ。

(宮崎市)